

第2回
2017

アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアーバナー

8月～
11月

京都大学西部講堂



京都・いづみ保育園



中目黒・楽屋

活動の必要性

NGO参入が極めて少ないモザンビークにおける唯一の日本の草の根NGO モザンビークのいのちをつなぐ会

- ① 2015年の人間開発報告書(国連開発計画UNDP)によると、モザンビークの人間開発指（HDI）は188ヶ国中180位。前年度より2位下落しており、依然、最低レベルの水準。
 - ② モザンビーク北部の世界最大規模のガス田発見もあり、同国への日本のODA投入額は上昇。しかし、同国はポルトガル語圏（第一言語は各民族の言語）のためNGO参入が少なく、草の根レベルでの支援が立ち遅れている。
 - ③ 日本の投資額が多額である一方、日本におけるモザンビークの認知度は非常に低い。

日本・モザンビーク間の認識・理解促進策が、モザンビークのQOL改善の土台になる。

HDIランク
168 ジブチ
169 南スーダン
170 セネガル
171 アフガニスタン
172 コートジボワール
173 マラウイ
174 エチオピア
175 ガンビア
176 コンゴ民主共和国
177 リベリア
178 ギニアビサウ
179 マリ
180 モサンビーク
181 シエラレオネ
182 ギニア
183 ブルキナファソ
184 ブルンジ
185 チャド
186 エリトリア
187 中央アフリカ
188 ニジェール



図表 III-12 ◆ サブサハラ・アフリカ地域における日本の援助実績

順位	国名または 地域名	贈与			政府貸付等			合計 (支出純額)	合計 (支出総額)	
		無償資金協力		技術協力	計	貸付実行額 (A)	回収額 (B)	(A) - (B)		
		うち国際機関 を通じた贈与								
1	タンザニア	27.81	3.90	32.46	60.27	53.72	—	53.72	113.98	
2	ケニア	24.00	14.70	36.88	60.87	51.19	66.16	-14.97	45.90	
3	ウガンダ	31.38	10.07	17.36	48.74	36.99	—	36.99	85.73	
4	モザンビーク	25.79	1.00	25.37	51.17	34.11	—	34.11	85.28	
5	アフリカ	56.28	11.75	26.50	82.77	—	—	—	82.77	
6	コンゴ民主共和国	43.46	16.20	10.34	53.80	—	—	—	53.80	
7	スリランカ	39.40	21.60	13.10	52.51	—	—	—	52.51	
8	ザンビア	24.91	12.50	14.47	39.29	10.74	—	10.74	50.12	
9	セネガル	22.33	—	2.43	45.30	—	—	—	45.06	
10	南スーダン	30.85	30.48	12.42	43.28	—	—	—	43.28	
11	マラウイ	24.74	12.20	17.00	42.94	—	—	—	42.45	
12	ガーナ	19.33	—	21.00	40.34	—	—	—	41.25	
13	ナイジェリア	22.89	4.87	12.00	35.15	—	—	—	35.15	
14	ソマリア	32.50	32.50	—	35.30	—	—	—	32.58	
15	ニジニール	29.79	14.30	2.26	32.05	—	—	—	32.05	
16	リベリア	29.66	—	—	—	—	—	—	30.26	
17	コートジボワール	14.33	14.00	5.23	24.60	—	—	—	26.59	
18	ジブチ	20.00	—	5.00	24.40	—	—	—	26.46	
19	カメルーン	—	—	5.00	24.40	—	—	—	26.46	
20	マリ	23.50	23.50	0.79	24.29	—	—	—	25.05	
21	ブルキナファソ	12.62	—	—	—	—	—	—	24.29	
22	ギニア	19.67	0.20	3.32	22.99	—	—	—	23.55	
23	ルワンダ	12.56	3.10	10.05	23.61	—	—	—	22.99	

サブサハラにおける日本のODA
投入額、第4位のモザンビーク
はポルトガル語圏。
5位以内の他の国はすべて
英語圏で言語の壁が低いため、
古くよりNGOの参入が多い。

活動の意義

モザンビーク及び当会の背景

モザンビークのいのちをつなぐ会 ～モザンビーク北部カーボテルガド州ペンバ市にスラムの学び舎・寺子屋を建設し
教育活動や、農村地区での井戸やトイレの設置、有機農業活動などモザンビークのQOLを向上する活動を実践。

経済産業界で注目を集めるが
認知度が低いモザンビーク

- サブサハラ48カ国における日本のODA投資額4位にも関わらず、日本国内での認知度低い。
 - ポルトガル語圏という言語の壁もあり、近隣のNGOが多数存在する英語圏のタンザニアやケニアと違い、NGO参入が非常に少ない。

感謝と尊敬の精神を誇る 芸術民族マコンデ族

- 伝統舞踏マピコや彫刻マコンデアートで世界的に有名。感謝と尊敬の精神文化をもつマコンデ族。西洋文明の流入により多文化性が急速に失われるアフリカでも比較的の独自の文化が守られている。

2015年マコンデ族日本初来日 59カ所で音楽文化公演実施

- 第1回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアーや2015年夏に実施。日本11都府県59ヶ所で公演を行い大好評を得た。
 - 再来日希望の声を多くいただいている。

当会の課題と方向性

課題

日本国内での活動不足

当会設立からモザンビーク国内の活動に注力しており支援者獲得やネットワークづくりが不足している。

当会の活動に対する日本国内での認知理解向上と広報力強化を図り、
ひいては、モザンビークに対する理解促進および支援拡大につなげていく。

目的 1

國際相互理解

【国際交流活動】芸術文化イベントの実施
→ダイレクトな相互理解基盤となる定例イベントで
祭り感と期待を誘う理解促進活動を展開

目的2

國際協力啓蒙

**【広報活動】ツール整備、理解・支援者の増加
→アフリカ・モザンビークへの関心を深め、支援者を獲得。
日本の共同者のネットワークを構築**

興味関心を惹く『マコンデ族の音楽と文化紹介』をフックとして、
国際相互理解・国際協力啓蒙活動を推進していく。

スケジュールと内容

日程

2017年8月末～11月予定

会場

学校、ライブハウス、カフェバー、コミュニティセンター等規模を問わず老若男女向け

◆公演数 全40公演以上

- ◇2017年8月末～9月9日（土）土日祝5日：大阪公演① 8公演（ナジャ＆バルディ）
- ◇2017年9月15日（金）～10月1日（日）土日祝7日：東京公演 10公演（ナジャ）
- ◇2017年10月3日（火）～10月10日（火）土日祝3日：東北公演 3公演（ナジャ）
- ◇2017年10月13日（金）～10月31日（火）土日祝6日：福岡九州公演 10公演（ナジャ）
- ◇2017年11月3日（金祝）～11月10日（金）土日祝3日：名古屋公演 5公演（ナジャ）
- ◇2017年11月11日（土）～11月19日（日）土日祝4日：大阪公演② 6公演（ナジャ）

公演内容

※公演講演時間は問わず。音楽公演のみ、当会代表の講義のみでもオッケイ。

マコンデ音楽

アフリカトーク

スカイプ

<日本にて>「生ライブ・講演の交流」
マコンデ族の音楽とアフリカトークのイベント

<生ライブ交流の内容>

- マコンデ族の爽やかなアフロ・ポップ音楽紹介
- 伝統的な舞踏マピコの仮面と衣装を持込紹介
- 対象により、アフリカの音楽に関する日本では入手困難なアカデミックな情報や、暮らしのお話を発信。

<アフリカトーク>

- 当会作成の資料(PDF:200ページ)を使用して、現地の暮らしや、当会の活動を紹介。

<日本・モザンビークにて>「スカイプでつなげた交流」
モザンビークの小学校やスラムの子供と日本の子供～大人をつなげる

<スカイプ交流の内容>

- モザンビークの子供とコミュニケーション
- 日本の子供たちの文化発表会
- 日本・モザンビーク質問交換会
- ※時差や会場の都合を考慮して、実施できる場所でのみ実施。

公演者

- ・ナジャ：マコンデ族、ボーカル&ギター、当会建設運営の寺子屋ディレクター
- ・バルディ：ロムウェ族、民族楽器、パーカッション等
(大阪公演①のみ、モザンビークでの教員仕事の関係で、2週間しか日本に滞在できないため)
- ・榎本恵：NGOモザンビークのいのちをつなぐ会代表、モザンビーク在住

第1回公演のまとめ



＜今後の主な招聘(予定)アーティスト＞

◆Nadja（ナジヤ）

マコンデ族ミュージシャン。29才。4才まで内戦を経験し、平和と教育に対する思いが強い。国内最大の音楽祭で近年2回連続賞を獲得。行政の社会支援活動のアーティストとして起用される他、当会寺子屋の音楽教室や美化活動等を積極的に手伝う。

◆Osvaldo（オズバルード）

Nadjaのバンドメンバー。2015年に来日公演。

◆Valde（バルディ）

Nadjaの幼なじみのアーティスト&音楽指導者。モザンビークで一番の大学の音楽科を卒業し現在首都で音楽の先生を行う。アメリカ公演も行っている天才肌のミュージシャン。

2015年に日本に初めてマコンデ族アーティストを招聘し、11都府県59ヶ所で音楽と文化公演を実施。

【成果◆日本サイド】 インパクト3000名以上

- ・アフリカやモザンビークの美術や文化、音楽に対する発見と、関心の向上。
- ・加速するアフリカの資本主義と飽和する日本の資本主義の両面から捉えることで、文明や文化に対する思考を深める契機となった。
- ・グローバル化し、アフリカ進出企業団体が増える中での、モザンビークへの理解促進。

【成果◆モザンビークサイド】

- ・人生に対する諦めムードの中で育つ現地スラムの子供・青年にとってスラム出身の若者が海外で活躍することは、後に続く子供たちのヒーローを育むこととなっている。
- ・公演を通じギターを進呈してもらい、現地の音楽教室で使用。他、鍵盤ハーモニカ等楽器の寄付のきっかけにもなっている。

【次へのつなげ方】

＜課題＞ 予算の都合で2名しかアーティストを招聘することができなかつたので次回はブラッシュアップしたメンバーで来日し、インパクトを広げ、知見、経験を磨きたい。

＜2016年以降のポイント＞

- ・大規模なフェスティバルへの参加によりインパクトの拡大を図る。
→2017年夏に東北で行われる音楽フェスティバルに参加の意向を示している。
- ・大学等の講義と絡めた演出と講演
→2015年公演以降、大学からの講義依頼が来ており、大学生への知識関心の供与に貢献するためにも、アカデミックな場での活動を増やす計画。
マコンデ族アーティスト来日時には講義と絡めて音楽文化紹介を実施。

事業の具体性と実行可能性

- 当会代表の榎本が広告代理店でプランナーとして活躍していた経歴もあり、イベントの企画や実行に関してノウハウがある。マトリックス的思考による綿密なリスク計算を行った上での、活動の実現が可能。

事業の重要性

【貢獻度】

● 経済投資と社会支援のギャップが大きいモザンビーク

→日本のODA投資額が巨額にも関わらずNGOが非常に少なく、モザンビークでの支援活動はまだ始まつたばかり。

【先進性】

●多様性を考える契機にふさわしいマコンデ族の招聘

→特に欧洲で有名であるが日本では認知度の低い
芸術民族マコンデ族を招聘。西洋文明の流入による
文化の変化を体感している彼らの思いを音楽にのせて
伝える。真の多様性とは何か？を考えるきっかけになる。

【継続性】

●2015年から2018年まで年に1回公演イベント実施

第1回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアーを
2015年に実施。

2016年は、マコンデ族アーティスト1名のみ招聘し、文化交流をメインにしたイベントを中規模で実施。

2017年は、第2回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアーを日本全国で実施。(本公演)

事業の影響力

【コラボレート型イベント】

- **日本の有名アーティストとコラボレーション**することで集客を高め、また参加者と一体となるイベント形成とするため、トークや質問を入れ、プレイヤーと聴衆の垣根を低くする。

【メディア広報】

- 新聞、テレビ、雑誌等、各種メディアからの取材も来ている上、当会代表が大学での講義も実施しているため、大学ルートからのメディア発信も可能。なお、当会代表がコラム執筆している定期機関誌やフリーペーパーのコラム執筆での告知も可能。

【社会要請の高さ】

- 指定アーティストの人柄・人間力を特に重視しており、単に**音楽や文化紹介の魅力だけではなく、生き方や考え方に対する関心**を多く得ている。当会がメディアを通じて、常時現地活動を発信していることもあり、来日希望の声が大変多い。

【人材育成性】

- モザンビークサイドではスラム出身の**ヒーローの創出**を目的の一つとしており招聘アーティストの**IT能力や日本語能力の向上**にも注力し、現地教育活動と連動させていく。

- 日本サイドでは、**学生・留学生**の将来に役立つ情報（ビジネス・NGO、アフリカマーケット）を発信。コラボも行う。また、シニア層から現地で手伝いたいとの問い合わせが定期的に来ているため、**生きがいを探すシニア層**の人生を応援できます。

(例: シーアインター、比較的ハードルの低い別の国の紹介)